

【目次】

序 歴史的建造物の保全活用に関する専門建築技術者：ヘリテージマネージャー

I 全国のヘリテージマネージャーの養成等の状況

- 1 連続講座
- 2 学習大会
- 3 考察

II 神奈川ヘリマネ修了生の継続能力開発のあり方

- 1 継続能力開発の必要性
- 2 継続能力開発の方法
- 3 アドバンス講座（試行）としての施工実習の実施

序 歴史的建造物の保全活用に関する専門建築技術者：ヘリテージマネージャー

近年、歴史的建造物の保全活用に関する専門建築技術者として「ヘリテージマネージャー」（以下「ヘリマネ」という。）が注目されている。ヘリマネとは、この取り組みを全国でいち早く始めた兵庫では、「地域に眠る歴史文化遺産を発見し、保存し、活用し、まちづくりに活かす能力を持った人材」としている。（※）

神奈川においても、平成21年度から神奈川県により「邸園（歴史的建造物）保全活用推進員養成講座」（以下「邸園講座」という。）が開催されており、我々（社）神奈川県建築士会も講座運営に協力するとともに、修了生の大半を（社）神奈川県建築士会の会員が占める状況となっている。そのような状況を踏まえて、歴史的建造物の保全活用推進に資するよう本研究に取り組むものである。

※ 受講者募集案内からの抜粋。講座の現在の主催者は（社）兵庫県建築士会であるが、平成20年度までは兵庫県教育委員会と兵庫士会が主催しており、県と兵庫士会の共通認識であると考えられる。

I 全国のヘリテージマネージャーの養成等の状況

研究に当たって、まず全国各地におけるヘリテージマネージャーの養成等の状況を概観しておく。ここでは、養成に関して全国町並みゼミ等の学習大会も含めて幅広く取り扱う。

1 連続講座

ヘリマネ養成の取り組みは、平成13年度に兵庫から始まり、その後、京都、静岡、神奈川、名古屋等に広がっている。また、これ以外に、三重、徳島など残念ながら短期間で終了してしまった地域もある。兵庫、静岡、京都、神奈川の講座について、開催概要を次表のとおり取りまとめた。

神奈川においては、平成11年頃からの（社）神奈川県建築士会スクランブル調査隊部会による活動（※）もあって、平成21年度から神奈川県により「邸園（歴史的建造物）保全活用推進員養成講座」（以下「邸園講座」という。）が開催されており、我々（社）神奈川県建築士会も講座運営に協力している。

※ 他に、よこはま洋館付き住宅を考える会などの活動も挙げられる。

2 学習大会

連続講座の他にも、年に一回程度、会員等が一堂に会して行う形式の学習大会が、様々な団体により開催されている。ある程度、集中的に網羅的に技術を習得するという点では連続講座に譲るが、開催各地の即地的で地域性に対応した取り組みに関する学習や継続性については意義が大きいと考えられる。以下に、概要を記す。

(1) 全国町並みゼミ

○主催 : NPO法人全国町並み保存連盟

○開催主旨 :

「全国町並みゼミ」は、1978年から始まった「全国町並み保存連盟」最大の催し物。伝統的な建築等が残る町並みを保存することによって、その町ならではの個性や魅力をまちづくりに活かし、あわせて住民の生活環境を整備する、いわゆる「町並み保存」をテーマに、講演・パネルディスカッション・各地報告・分科会・ブロック別会議・ガイドツアー・交流会などで構成される総合大会。「町並み保存を中心とする地域の創造の主体は、住民であり、自治体であり、それに協力する専門家である。」（第一回大会 有松・足助宣言）をスローガンとして、毎年全国の加盟団体所在地で開催されている。

（出典：第33回全国町並みゼミ盛岡大会実行委員会事務局ホームページ）

○開催概要（直近の盛岡大会） :

- ・日時：平成22年11月5, 6, 7日
- ・場所：岩手県公会堂ほか
- ・規模：大会事務局では、約1000人の参加者が見込まれるとしていた。

○開催経過 :

連盟最大のイベント「全国町並みゼミ」は、1978年から始まりました。全国的な町並みの勉強会を開こうと、「有松」「足助の町並みを守る会」の仲間たちが恐る恐る準備を進めたのですが、幕を開けてみると会場の有松小学校講堂と足助町民センターがともに満員となり、来賓の名古屋市長がびっくりするほどの成功をおさめました。住民の他にも町並み地区の行政職員や建築学者・学生の姿が目立ち、「町並み保存を中心とする地域の創造の主体は、住民であり、自治体であり、それに協力する専門家である。」（有松・足助宣言）と三者の協力を求めて、町並み運動に新しいページを加えました。

「全国町並みゼミ」は翌年から、“開かれたゼミ”、“手作りゼミ”として年中行事となり、北は小樽（北海道）から南は竹富島（沖縄県）まで全国の町並み地区で開催し、1998年の東京ゼミ（東京都）で21回目を数えることになりました。この間、町並み保存事業も着々と進み、とくに1980年頃からは自治体も大いに関心を寄せ、個性ある町づくりの行政手法として評価され、“歴史を生かした町づくり”が注目されるようになりました。さらに最近では、近代化遺産、登録文化財制度などが社会的関心と呼び、歴史環境がようやく日の目を見ようとしています。

（出典：NPO法人全国町並み保存連盟ホームページ）

○ホームページアドレス：<http://www1.odn.ne.jp/~cah24160/matinami.index.html>

(2) 全国まちづくり会議（全まち）

○主催：NPO法人日本都市計画家協会

○開催主旨 :

全国各地域でまちづくりに活躍する団体やそれを支援する企業および、個人が年1回集まり、それぞれの工夫や悩みを語りあいながら、交流の輪を広げていくイベント。

○経過：「全国都市再生まちづくり会議2005」

開催日：2005年8月6日（土）、7日（日）

会場：工学院大学 新宿キャンパス、日比谷公会堂

「全国都市再生まちづくり会議2006」

開催日：2006年8月5日（土）、6日（日） 会場：東京都中央区常盤小学校

「全国都市再生まちづくり会議2007」

開催日：2007年7月15日（日）、16日（月） 会場：工学院大学 新宿キャンパス

「全国まちづくり会議2008」

開催日：2008年10月4日（土）、5日（日）
会場：北海道恵庭市 恵庭R Bパークセンタービル
「全国まちづくり会議2009」
開催日：2009年9月21日（月・祝）、22日（火・休）
会場：サンピアンかわさき（川崎市立労働会館）
「全国まちづくり会議2010」
開催日：2010年10月9日（土）、10日（日）
会場：崇城大学市民ホール（熊本市民会館）

○ホームページアドレス：

<http://jsurp.net/xoops/modules/tinyd35/index.php?id=1>

※ この他に、建築・都市計画・アートマネジメント・造園等の学会、建築士会全国大会等資格者団体による大会なども学習大会として挙げられるが、ここでの記載は割愛する。

3 考察

連続講座と学習大会を概観すると、双方ともにそれぞれの意義が認められる。すなわち、両方とも取り組むことができれば、相乗効果も期待され最も望ましいことが分かる。それを行っているのがヘリマネトップランナーの兵庫である。兵庫では、連続講座「兵庫県ヘリテージマネージャー（歴史文化遺産活用推進員）養成講習会」が開催され、学習大会「ヘリテージ大会」も年に一度、県内各地で開催されている。よって、両方が開催されることが目指すべき姿であると考えられる。

II 神奈川ヘリマネ修了生の継続能力開発について

1 継続能力開発の必要性

（1）保全活用に関する活動への誘導

神奈川のヘリマネ講座である「邸園（歴史的建造物）保全活用推進員養成講座」は平成21年度に初めて開催され、一定の能力を有する修了生が21年度末時点で25人※誕生した。ヘリマネ講座開催以前から歴史的建造物の保全活用に関する活動を行ってきた（社）神奈川県建築士会スクランブル調査隊部会では、ヘリマネ修了生に期待していたが、部会員として実働しているのは10人程度である。このことから、アドバンス講座等の継続能力開発事業（ただし、事業の実施主体の検討は要する）を企画して、修了生を刺激し続け、修了生を保全活用に関する活動に誘導する必要がある。

※ 建築士向けである「保全設計監理コース」の修了生の人数。

（2）自己研鑽

邸園講座修了生は、講座全単位を履修した建築士であり一定の能力を有するものの講座のみで習得できる技術には限界もある。また、世の中に存在する歴史的建造物は建築年代的にも様式的にも構造的にも工法的にも多岐に渡っており、常に自己研鑽が求められる。さらには、建築物に対する知識、経験や見識のみならず、いかに所有者から家系や建築物に関する情報を引き出すか、或いは、いかに所有者に建造物の価値を認識してもらうのかといったある種の交渉力も非常に重要になってくる。この交渉力は、さまざまな所有者との対応という経験により培われるものであるため、継続して保全活用に関する活動に関わることが重要である。

（2）他県の動向

静岡県では、（社）静岡県建築士会が講座を開催しているが、県がアドバンス講座的な「静岡県文化財建造物監理士養成講習会」を開催している。

2 継続能力開発の方法

主にヘリマネ修了生に向けた継続能力開発の方法としては、次の方法が考えられ、今回は、このう

ちの「アドバンス講座」を試行した。

- アドバンス講座の開催
- 工事現場見学会の開催
- 学習大会の開催

3 アドバンス講座（試行）としての施工実習の実施

今回は、アドバンス講座（試行）として、県が開催している「邸園講座」において比較的手薄となっている施工実習を実施した。

(1) 実施概要

日時：平成23年2月27日（日）

会場：川崎市立日本民家園（川崎市多摩区枅形7-1-1）

受講者：ヘリマネ修了生、10名

内容等：

内容	土間叩きの施工実習	壁土練りの施工実習
場所	旧佐々木家住宅前の井戸	壁土置き場
		
講師	大野敏氏（横浜国立大学准教授）、市川茂氏（(有)川中工務店）	
内容	茅葺き見学 （模型・園内）	土壁の見学 （園内）
場所	園内	園内
		
講師	大野敏氏（横浜国立大学准教授）、市川茂氏（(有)川中工務店）	

(2) 受講者意見等

ア 土間叩き

- ・材料のことが良くわかった。
- ・どの位叩けばよいのかなんとなくわかった。
- ・養生の話は良かった。
- ・路盤の構成や施工手順などがわかると良いと思う。
- ・半日掛けた体験内容としては少し物足りない感じだった。
- ・練習用のシチュエーションでなく、実際の仕事場面での体験は良かった。
- ・コンクリートでは味わえない土の質感（ねっとりとして柔らかく、温かい手触りでもあり、硬くもあり）が心地良かった。叩くコツ？は叩き棒をふりあげ、力を入れずに自然に下すと、ピシッとした快音が聞かれ、土が良い色に変化していく過程を感じる事ができた。石隅の叩きは難しかったが、作業は根気・忍耐・手間がかかり、だからこそ残したい技術と認識した。土間は、屋内とも屋外とも言える、いろいろな使われ方をしてきた空間なので、改めて昔の人の知恵や工夫を感じる事が出来た。ござの特性を生かしたすき間のない養生も割れを防ぐ大切な工程として再確認した。一緒に作業をし、ご教示頂いた温かな方々に、感謝。
- ・叩きの実習でするので内容は大変参考になりました。1日では不可能かもしれませんが、土の事、施工の事、勉強したいと思いました。
- ・土間の叩き方をまったく知りませんでしたからよい経験でした。せっかく配慮していただいたスケジュールが翌日の雨予報で、予定より早く仕上がっていて実習生が作業をすると職人さんの仕事を荒らしてしまい仕事を増やしてしまうようで手が出しにくく残念でした。
- ・受講生は、もう少し前の段階で参加できて、仕上げをプロの職人さんにお問い合わせ出来るとよかった。

イ 壁土練り

- ・切り返しの大変さが身にしみてわかった。
- ・荒木田土の産地の正確な情報や入手情報を知りたい。
- ・適切な材料（荒木田土、わら）の見方。
- ・小舞の作り方、荒壁の塗り方を模型でも。
- ・民家園の建物の壁を見ながらの話は良かった。
- ・次回は是非荒壁塗りを体験したい。
- ・壁に土を塗り付けた時に脱落や乾燥収縮・亀裂を防ぐための良質な土づくり？に励んだ。6センチ程度に切った藁と水を加えながら、足踏みを繰り返し、繊維と土を混ぜ合わせた。土練りが重く、全身に力の要る作業だと感じ、膝上長靴が多いに役立った。このスケジュールと段取りの大変さに感謝しなければならない。最後には水張りをして3か月以上寝かせる段階を知る事で、色々な地域で採れる、土の特性や強度の違いなどにも、ますます興味を持った。
- ・材料の下拵えがこんなに大変とは知りませんでした。出来れば3か月置いたものと2種類の船を用意して、練返しの後、「竹小舞の組み方」、土塗り壁の鏝を使っての塗付け作業をやってみたかった。

ウ 茅葺き見学（模型・園内）

- ・茅葺きの構成が断面模型で見られて良くわかった。説明も丁寧で良かった。

- ・園内を見てなんとなくわかってきたが、工法や構成が何種類かあるようで漠然としてきた部分もある。
- ・材料を見、一緒に模型を作ると良いかもしれないが、大変だ。
- ・茅葺き屋根の複雑さを改めて学びました。素朴な材料を長い間の職人の知恵と工夫で建築材料に仕立て上げた経緯が理解出来ました。茅ぶきの長所を生かした現代流の屋根材や工法がまだないのが残念です。
- ・茅葺の図解と模型を照らし合せながら名称や縄とり・縛り方を知る良い機会となった。今回だけでは、まだ理解不十分だが、茅の滑りおち、差し茅、部分的な葺き替え、軒下の様子など見学し、茅葺への知識の引き出しが少々増えたと思った。茅葺は郷愁、懐かしさを誘い、日本の風土にあった残すべき日本の技術であり、それを受け継いでいく必要性を感じた。
- ・聞いたことをより身に付けるにはやはり実践するのが一番で今回は、「結い」なる作業をやりたい。世間によく言われる「茅葺なので30年に一度葺き替える」が相当妥当ではないことがわかった。（こまめな「差し茅」で対応できるんですね。）

エ 土壁の見学（園内）

- ・滅多に聞けない失敗の話聞きながら見ると、いろいろなことが見えてくる。
- ・壁の仕上りの評価を整理して聞けるともっとわかりやすい。
- ・先に土練りを経験していたので実感を持って話が聞けた。
- ・今回は土壁作りの体験の機会を是非作って欲しい。
- ・荒壁・中塗など伝統工法の独特の温もりを感じさせてくれる園内見学だった。旧工藤家住宅？の連続壁は土の特性・土練りの大切さを教えてくれた。強度低下に影響する品質保持に対しては、職人の経験と勘に頼るところも大ではないだろうか。
- ・自分で竹小舞を組んで土壁を塗りつけてみたい。

オ 全体意見

- ・ぜひ実習講座は多く設けて欲しい。

（3）効果や課題の検証

施工実習は、受講生の満足度が非常に高くニーズが高いことが改めて分かった。反面、受講人数が限られるにもかかわらず、運営に関する労力や費用が非常に大きく、すなわちコストパフォーマンスが悪い。従って、コストパフォーマンスを改善する実習運営方法を模索する必要がある。

また、今回のような伝統工法の施工実習をそのまま通常の活動で活かす機会は非常に少ないと思われるので、伝統工法を踏まえた上で、より進化した伝統工法を学習することも重要と思われる。

以下は、講座運営の観点からの感想や反省点を列挙した。

- ・受講者の満足度は非常に高かった。
- ・講座での施工と言えども、改修したものが残り展示・活用されるため、いい加減な施工は許されない。
- ・よって、当該野外博物館での工事経験が豊富な施工業者に施工指導を依頼することとなるが、素人の手を使ったものにも関わらず、また通常の工事とは違った様々な制約があるにも関わらず、後々、当該施工業者が施工したものと認識される可能性が高く、また改修したものが展示活用されるため、当該施設管理者等による当該施工業者への評価が下がることにならないよう、受講生がどの程度施工を行うか等の事前の計画が非常に重要である。
- ・改修したものが展示活用されるため、講座の後日に職人による仕上作業が必要となり、コス

トパフォーマンスは悪い。→受講生による施工の作業量を減らせば、職人の手直し手間も減る。しかしながら、あまりに減らすと見学会的内容になり講座の意義が薄れる。

- また、自動車による資材運搬が困難な会場であると、人力による資材運搬が必要となるのでコストがアップする。
- 上記のようなことからすると、少し極端に言えば、講座主催者にはあたかも公共工事発注者における監督員のような技量と資質が求められ、また講座の準備期間や後日も含めて、工事の監督員の役割も求められるため、主催者の負担は大きい。
- 近接地での来園者向けイベントが組まれている場合もあるので、安全管理の点で労力や費用が掛かる。
- 雨天の場合も想定した計画が必要で、直前の天気予報により段取りを変える必要が出てくる恐れもある。
- 本講座はある種の企業ノウハウを教えることであり、施工指導を行う施工業者と講座主催者或いは受講生との信頼関係が重要である。

以上